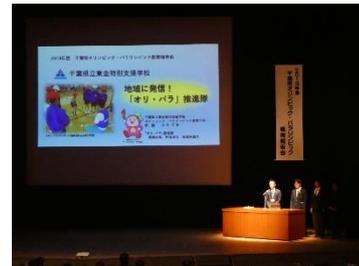


2019年度スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
千葉県地域ワークショップ 報告書

日時	2020（令和2）年1月31日（金）13：15－16：20
会場	千葉県文化会館
参加者	711名 （小学校教諭412名、中学校教諭218名、高校教諭28名、特別支援学校13名、市町村教育委員会36名、教育事務所4名、日本体育大学2名）
プログラム	<p>13：15 開会行事</p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉県教育委員会教育長挨拶 千葉県教育委員会 教育長 澤川和宏 児童・生徒によるオリンピック・パラリンピック開催に向けたイラスト・キャッチフレーズ最優秀賞表彰式 <p>13：50 推進校による実践報告</p> <ul style="list-style-type: none"> 館山市教育委員会・館山市立豊房小学校 木更津市立清見台小学校 県立東金特別支援学校 <p>15：10 講演「オリンピック・パラリンピック開催年に子供とともに考えるべきこと」 日本財団パラリンピックサポートセンター推進部 プロジェクトマネージャー マセソン美季</p> <p>16：20 閉会</p>
内容	<p>開会にあたり、スポーツには、スポーツを通じて人々の意識を変え世の中を変えていく価値があり、絶好の教育素材としてオリンピック・パラリンピックを活用していただきたいと挨拶があった。</p> <p>続いて、実践報告が行われ、市教育委員会と連携し外部講師やホストタウンの紹介を積極的に行ったことについて、パラリンピック教育を「知識教育ではなく、意識教育」と捉え、「I'mPOSSIBLE」のユニットの順番を目的に応じて工夫することでより有効に活用できることについて、生徒が主体となって地域でパラリンピックやパラスポーツについて指導・紹介を行った取り組みについて報告された。</p> <p>最後の講演では、マセソン氏のこれまでの人生をなぞりながら障がいについての日本と世界の違い、共生社会に向けた心のバリアフリーに向けて「I'mPOSSIBLE」作成の想いと活用について話された。</p> <p>県内の多くの教育関係者が参加し、次年度のオリンピック・パラリンピック教育の推進に向けた有意義な会となった。</p>



会場の様子



実践報告の様子